

8月18日(木)に第2回加藤繁美ゼミがオンラインにて実施されました。今回のゼミは、生後2カ月～3歳までの子どもの育ちと保育士の関りのポイントについてお話いただきました。ゼミ受講生の方々からの受講後の感想をもとに、加藤先生のお話の中で印象に残った内容をゼミ通信にまとめさせていただきました。

「乳児期の発達は規則的に」という先生の言葉にもあるように、発達に応じて保育の生活を作ることの大切さを学ぶことができました。

～乳児期に育つ3つの要求～

同調・共感要求



抱っこされる心地良さ
話しかけられる心地良さ
受動的に学び、
人に育てられる要求

探索要求



モノに対する能動的な要求
人がいなくても育つ要求

生理的要求



食事・睡眠・快、不快の要求
意識していないが体が要求

情動

反射

生理的要求

この3つの要求が、
乳児期・幼児前期に
バランスよく育つことが
大切です！

乳児前期 (2カ月～6カ月)
五感的要求の育ち

- 2カ月になると反射機能が育ち、目と耳の協応関係が育ってくる。物や顔をじっと見つめるようになる(2カ月革命)
- 4～6カ月は、目と手の協応関係が成立し、ガラガラを取ろうとするなど体全体で反応するようになる。

ガラガラ、オルゴールメリーなどの玩具や遊具を用意し、触ったり振ったりして音を楽しむおもちゃや、追視を楽しむおもちゃが子どもの興味関心を引き出します。

乳児中期 (6カ月～10カ月)
基本的信頼感の育ち

- 人見知りが始まり、大好きな人を選ぶようになる。そのため、必然的に拒否する反応も出る。特定の人を拠点にその人以外にも心を広げていく時期。
- 情動要求が大きくなり、笑うと笑い返す、もっと抱っこして！もっとおもしろいことやって！等、コミュニケーションを求める要求が強くなる。

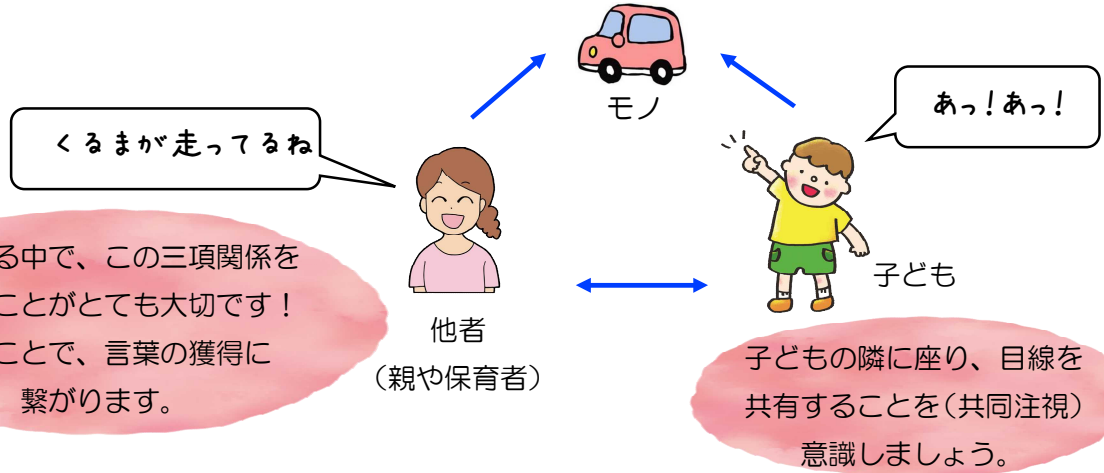
特定の大人(保育者)との間に育つ「基本的信頼感」を育てる大切な時期。



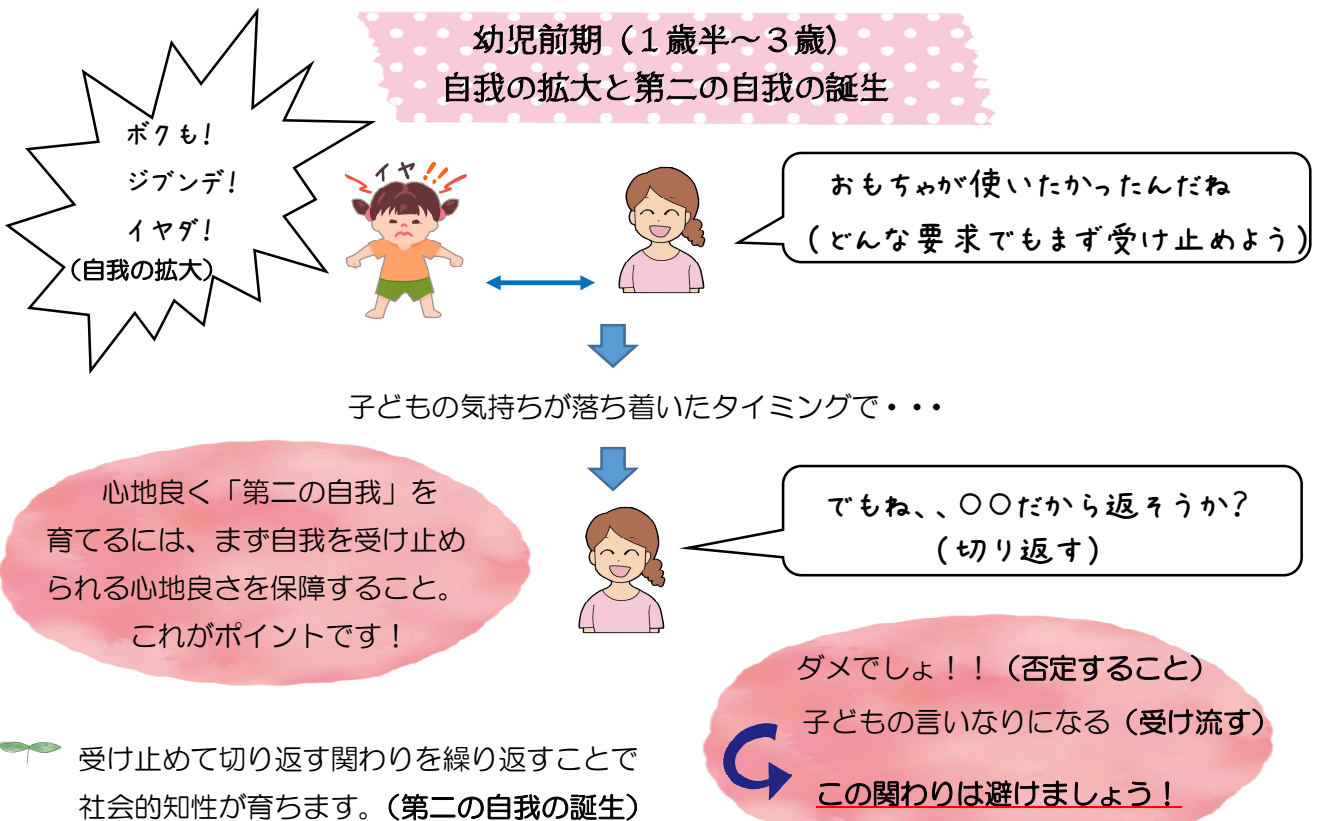
あやしあそび・わらべうた・うたなど、「あやし文化」を挟んで、同じ言葉や同じメロディーと共に繰り返し経験できるようなふれあいあそびを楽しみましょう。

乳児後期（10カ月～1歳半）
三項関係をつくり、言葉を使う主体へ

- 10カ月を過ぎると、モノに対する要求を大好きな人に伝えるように指差ししながらコミュニケーションをとるようになる。
- 子どもとモノと他者（親や保育者）がつながっていくことを三項関係の成立という。



幼児前期（1歳半～3歳）
自我の拡大と第二の自我の誕生



受講された先生方から、「乳児期の保育や関わり方について、改めて見つめなおす機会になった」「理論と実践を結び付けていくことの大切を感じた」という感想を多くいただきました。ご講演内容の中で、「乳児期～幼児前期に、特定の大人がどのように関わるかで子どもの個性が決まってくる」というお話があり、とても心に響きました。

次回は 10月20日(木) 13:30～15:00 和光市役所602会議室でお待ちしています!!

(研修担当) 保育センター 保育士 寺尾道代